

5th International Conference
on
Microbiology of Food, Health & Environment:
Problems and Prospects in Developing Countries

26th-28th December, 2010,
University of Dhaka, Dhaka-1000, Bangladesh

バングラデッシュ国際学会

バングラデッシュ・日本両国間が隔年に開催している第5回BJ国際学会は2010年12月ダッカ大学で開催された。

本学会への参加国が大幅に多くなり、韓国、イラン、イラク、インド、タイ、米国、UK等からの演題発表がありより充実した学会となった。

技術的な研究レベルは各国間でほとんど差がなく、違いがあるとすれば追試研究であるかオリジナル研究であるかの差である。

日本人研究者の共通課題は、いまだ解決されていない語学力にある。理系の専門教科を英語で講義する必要がある。先取的大学では既にその方法を導入している。

2012年の本学会は弘前大学主催で8月に行う予定である。

ダッカ大学・学会場入り口の看板



第一会場である微生物学研究棟の入り口と中庭



この建物が第一会場で左手うしろの建物が第二会場である。



建物の中庭

学会出席者への証明書の準備をしているダッカ大生



ダッカ大学には国内最優秀の学生が集まっている。流暢な英語を話し講義・実習も英語である。母国語が別にある。

講義室での挨拶交換



(左より);ホック教授、植村教授、バリ博士(筑波で15年程研究し昨年帰国)。そして微生物学講座の主任教授で今学会の会長であるハッサン教授。

ダッカ大学キャンパスでの学生ミーティング



学生はみな質素で純朴で懸命に勉強している。

ダッカ大学のシンボル「カズンホール」記念棟



イギリス人が残した建築物で相当古い記念建築物である。

親友ホック教授(第二会場のカフェテリアで)



氏は「東京大学」で学位を取得している。日本の大学で学位を取得した研究者は多く、そして英国、オーストラリアの順である。

オープニング・セレモニーでの役を終えたアーサン教授



いま彼はバングラデッシュを代表する研究者となった。

ジャハン(アーサンの奥さん)と弘大院生の桜庭さん(女性)と
稲葉先生(会場で)



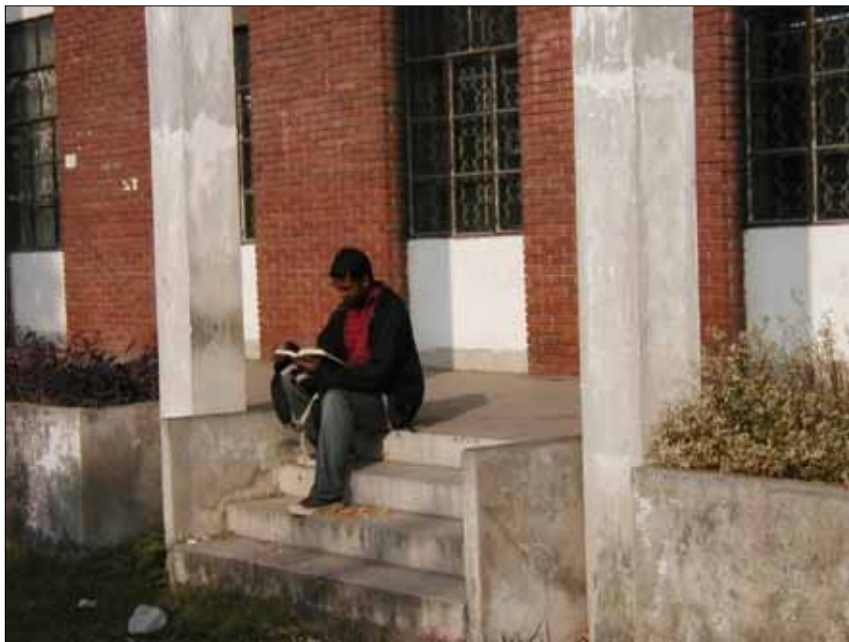
アーサンがペンシルバニアのジェファーソン大に留学中に、ジャハンはアルバイトでアメリカの高校で化学を教えていた。それくらいの語学力である。

赤いのは花ではなく葉でした



ダッカ大学の12月の付属植物園で

暇をおしんで勉強するダッカ大生



学会第二会場になった新しい研究棟



食品機能開発を目指す研究棟でホック教授が責任者。最新の分析機器（日本、ドイツ、アメリカ製）が導入されており国の期待の大きさがわかる。

学会で発表するタイ国の女性研究者



Vice-Chancellor主催の学長官舎庭園での夜会



女性教授と夜のガーデンパーティーで。学長官舎は広大な庭があり、官舎内を公開してくれた。

昼食会で神戸の医師・田中先生とチッタゴン大の研究者達



田中先生は我が国の「ノロウイルス研究」の第一人者である。

昼食会でチッタゴン大の教授(獣医師↓)と研究者連



昼食会での続きです



アーサン教授とチッタゴン大のスタッフ。



左端時は弘前大・大友先生

チッタゴン大の女性研究者とアーサン、桜庭さん



桜庭さん曰く「このままここに住みたい」

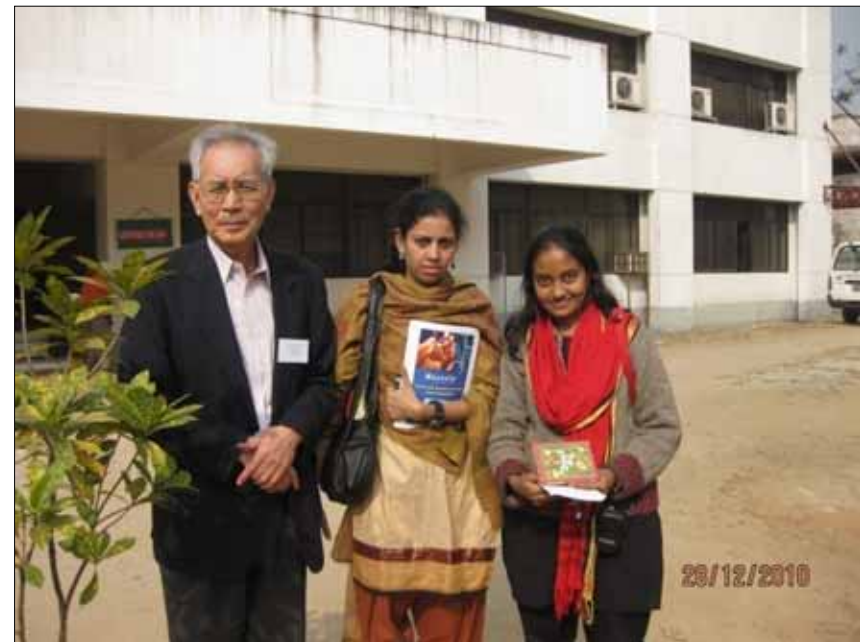
ダッカ大学の若手研究者と学生

(日本で高度な研究をしたいと希望している)



Sabrina Liza
Department of Microbiology
Dhaka University

(ダッカ大生:臨床検査科学専攻生)



Rezowana Mannan (右)
B Sc in Medical Laboratory Technology
University of Dhaka
Dhaka, Bangladesh.

学生のRezowana Mannan からメールが届きました

Hello, Sir,

I am Rezowana, from Bangladesh. Here's the picture that I've taken with you, is attached to this mail. I'll never forget the nice moment when I've met with such a great person like you. Thank you for encouraging me, Sir.

Thanking you
Rezowana Mannan
B Sc in Medical Laboratory Technology
University of Dhaka
Dhaka, Bangladesh.



銀行が準備してくれたデナーパーティーです



挨拶する植村先生とAhsan(奥)。手前は片山教授先生ご夫妻。
奥に北教大教授の鵜飼さん。

余興をするアーサンとダッカ大の若手研究者たち



かつて日本人研究者がアメリカで研究教育を受けたように、今度は日本がその役を果たす番である。

アーサン家に日本の研究者が招待されました



玄関でラッシーが日本人の靴の匂いに固執しています。

アーサン家のリビングで自己紹介



アーサン家ではメイドさん、運転手を雇っている。長女のタヒアは昨年結婚し英国住まいである。

「マリファ」と「ラッシー」と我が家の「フリッツ」です



マリファは日本に留学で来るかも。盛岡のわが家にも来てフリッツに会っています。

訪問した私立大学の「Stamford University Bangladesh」



Prof. Dr. M. Majibur Rahman (Vice-Chancellor) の部屋で (Stamford University)



RahmanはVice-Chancellorであることを今まで知らなかった。奈良先端技術科学大で会ったときにお土産を貰ったので、私も持ってきたが・・・と言ったら、日本での学会までしまっておいてくれと言われました。

近畿大・米虫教授のStamford大への著書進呈



学生部長と総務部長の教授たち (Stamford University)



一時間程いろいろな話をRahmanの部屋でしました。

Stamford University の大学総長(左)とバングラデッシュの
現・女性大統領 Sheikh Hasina



大学は大統領の写真を掲示するならわしとのことです。

Stamford Universityの「救急車」で国立農業試験場まで (給油中です)



Rahmanの部屋で自動車を待っていたが故障とのことで手配されてきたのがこの救急車でした。この奔放性がとてもいい。

訪れた農業試験場では菜の花が満開でした



樹木の向こうの白い建物は「米穀研究センター」。

国立農業試験場での昼食



試験場玄関脇で



試験場での昼食。スパイスが効いていて美味しかった。

試験場からの帰りに立ち寄った市場



硬そう魚の鱗を集めていました。工芸品にでも使うのでしょうか？

右側のテント群が「市場」になっていました



日本人の市場見学に来た子供達



後ろのネットの中には生きた鶏が入っています。売り物です。

市場内の店舗です



「魚屋」です



「野菜屋」です

ライバルのいない「独占企業の米屋さん」です



「私達は雑貨屋です」



お隣さんはライバル同士で、互いの売り上げを超意識しています。

生きたニワトリを売る「鳥屋さん」です



イスラムでは豚肉は食べないので肉はチキンが主なものである。

大人も子供もみんな仲間です(市場で)



片山先生ご夫妻と子供達の集合写真



片山先生ご夫妻共著のエッセー集



片山眞之(大阪青山大学客員教授)、
洋子先生(大阪青山大学教授)

12月下旬のダッカ市内の朝の風景



市中发现した標語



書いてある内容がとてもいい。

自動車から見た街のようす



農業試験場への途中での光景

道路わきに溜まっている生活排水



前を走っているのは「ミニ乗り合いバス」です



少年二人は乗客の集金をするコントローラー。おかげさまで満員です。

ダッカ市内で日本語が書かれた中古車を発見！



荷台の彼は写真を撮る私に「ピース」のサイン。当方もThumb Up！
車体の日本語は外車であることの証明(?)です。

貧しい人は路上でテント生活をしています



炊事中と思いますが。

ホテルで配布された朝刊の一面記事 「危険な家屋、誰が責任を？」



二つのアパートの間につくられた数階建ての「違法家屋」。発想がいい。

機会があったら乗ってみたい乗り物です



今回はリキシャには乗りました。次回はスクラッチ付きの乗り合いタクシーとバス。

帰国後に共同研究の申し込みのメールが届きました

February 21, 2011

Professor Jin-ichi Sasaki

Dept. of Clinical Immunology
School of Health Sciences
Hirosaki University Japan

Dear Sensai,

I am Dr. Syed Rashel Kabir (Assistant Professor, Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Rajshahi University, Bangladesh), met with you in the 5th International Conference on Microbiology....., Dhaka University, Bangladesh. Before the Dinner party we talk a little about the collaboration work. Four posters (abstract no 87, 113, 133 & 136) were presented from my group. You have presented your paper on the antitumor activity of garlic extract (antioxient). Now I am doing my research on the antitumor activity of lectin against EAC cells *in vivo* in mice. Recently (3rd February, 2011) one of my paper related lectin and EAC cells has been accepted by Bioscience Reports (full paper available in <http://www.bioscirep.org/bsr/imps/toc.htm>), another is in review. I am going to send 3rd paper on lectin with more detailed on EAC cells related works (tumor weigh, life span, blood parameters etc.).

You know we have very limited fund and opportunity here in Bangladesh. Some students doing their research work (Ph. D, M. Phil and M. Sc level) under my supervision. If you have opportunity we can do some antitumor related research work together. I am very much hopeful to do some good research with you.

Thanking you with best regards

Yours sincerely

Dr. Syed Rashel Kabir
Assistant Professor
Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, University of Rajshahi
Rajshahi-6205 Bangladesh
E-mail: rashelkabir09@yahoo.com; rashelkabir@ru.ac.bd

Tel: 880-1558796153 (Cell phone)

終わりに

国民の貧富の差が大きいとホック教授は言っていた。ダッカ大学のキャンパスに池があるがそこで若い女性が体を洗っていた。お風呂代わりである。

一方、スタムフォード大の近くに富裕層子女のための私立女子大がある。子女たちはドライバー付きの自家用車で登校し、そして運転手は子女が下校になるまで車内で待っているとのこと。それが現状とのこと。

バングラ国の食品衛生管理の発表があり、衛生のためのセミナーも開いているとも言った。「ホテルからこの学会場まで来る途中の路上に小さな店がいっぱいある。その人たちの教育指導はどうなっているのですか」と質問したがハッキリとした答えはなかった。上部の発表はいつも現状と乖離している。

以前、医師のモーレック(弘前大院卒)に連れられて病院を訪れたことがある。そこで母親に子供を助けてくれと泣きつかれたことがあった。病院と言っても日本の病院とあまりかけ離れた状況に驚いたことが思い出された。

日本に留学を希望する若者が多い。どうにかして若手研究者を育てたい思いが募る。